

真鍋 一郎¹, 高野 博之²

¹千葉大院医, ²千葉大院薬

近年、代謝の異常が多様な生活習慣病・加齢関連疾患の基盤に共通して認められることに注目が集まるようになってきている。例えば糖尿病は動脈硬化性疾患だけでなく、心不全や様々ながんのリスクを増加させる。また、細胞レベルでの代謝パスウェイの変換（代謝リモデリング）が、がん細胞の増殖や免疫細胞の活性化に必要なことも明らかとなっており、細胞機能と細胞代謝は従来考えられていた以上に密接に連結していることが分かってきた。このように、全身・組織・細胞レベルでの代謝制御は生物の恒常性維持に必須な役割を担っている。従って、その変調は組織機能の低下、さらには慢性炎症によるリモデリングと機能不全をもたらすことが考えられる。本シンポジウムでは、代謝ネットワークと多様なシステムの連携による組織恒常性の維持と破綻に関する最新の研究成果を発表する。特に生活習慣病や加齢関連疾患における組織機能障害に着目し、代謝ネットワークがどのように病態に寄与しているか議論を深めたい。